

平成 28 年度 産業技術連携推進会議 ライフサイエンス部会 第 19 回 デザイン分科会 議事録

期 日： 平成 28 年 6 月 9 日（木）～ 6 月 10 日（金）
場 所： 1 日目／サテライトキャンパスひろしま（広島県民文化センター5 階）
〒730-0051 広島市中区大手町 1 丁目 5-3
2 日目／宮島商工会館 〒739-0588 広島県廿日市市宮島町 527-1
マツダ株式会社 デザイン本部及びマツダミュージアム 〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地 3-1
主 催： 産業技術連携推進会議 ライフサイエンス部会 デザイン分科会
国立研究開発法人 産業技術総合研究所、広島県立総合技術研究所、広島市工業技術センター
協 力： 中国経済産業局

<1 日目：本会議> サテライトキャンパスひろしま

■デザイン分科会本会議（502 会議室）

1. 開会（進行：広島県立総合技術研究所西部工業技術センター 門藤至宏氏）
2. 挨拶

デザイン分科会会長 橋本晃司氏

4 月から分科会会長を務める橋本です。被災された九州・熊本地域の方に御見舞い申し上げます。当地では 2 週間前にオバマ大統領来広の歴史的な出来事がありました。本日は広島の平和とデザインについて、GK デザイン総研広島の弥中社長からお話し頂きます。続いて産総研、経産省等出席者について、また翌日の宮島細工及びマツダ現地研修について紹介。その後には会長公約として①デザインによる産業・産地支援力のさらなる向上、②外部機関との積極的な連携、③こらぼん WEB 等の継続を説明。さらに今回、北海道からの提案でデザイン活用ツール研究会を試行すること、ポスターセッションが 18 件も申込みがあり、会長としては会員の「伝えたい・繋がりたい」思いは全て執り行っていきたい旨を説明した。最後に H28 秋の山梨県、H29 春の長崎開催に触れた。



ライフサイエンス部会 宮田なつき氏

今回の広島開催で、私が携わるようになって 5 年目となります。私自身は人間のモデルをつくるということで、デザインに関しては完全に素人ですが、何年か参加させて頂く中で問題点は共有できてきたかと思えます。今回、活況な様子の中でまた勉強させて頂くことを有り難く思っています。素人ならではの指摘や、素人であることは大切にしていきたい。私的の外れな質問をしても皆さんで温かく答えて頂ければ。そうしたことに答えられることが本質的には重要で、「分かってないな」ではなくきちんと応えることが大切かと、自身の研究でも思っています。2 日間、宜しくお願いします。



広島県立総合技術研究所西部工業技術センター 坂元康泰氏

広島には世界遺産の原爆ドームがあり今日からはオバマ大統領の書簡と折鶴も展示されます。平和公園はランドスケープデザインでも素晴らしい場所なので是非訪れて頂ければと思います。世界遺産繋がりで宮島ですが今回は工芸デザインを観て頂きます。同じく世界繋がりでワールドカーオブザイヤーを獲りましたマツダにてプロダクトデザインを観て頂くことになっています。そして広島は酒どころであり、総合技術研究所で「もみじ饅頭に合うお酒」を開発しました。「饅頭とお酒」のような“組合せのデザイン”も皆様に考えて頂ければと思います。私共、少ないスタッフで主催しますので至らぬ面もあるかと思いますが、2 日間、宜しくお願い致します。



3. 議事

1) 連絡事項

「iF デザインアワードについて」 iF 日本オフィス 代表 高田昭代氏

iF インターナショナル・フォーラム・デザインはドイツのハノーバーに 1953 に設立。アワードはインターナショナルコンペとして 63 年の歴史がある。年間 5000 件のエントリーがあり、これまでに 13 万点を収蔵。プロダクトや建築等、7 分野で構成。春から 10 月頃まで募集し、翌 1 月に審査、3 月初旬に結果発表。応募のメリットは、製品を世界市場で販売する際にロゴを使って頂いたり、iF の WEB で PR されること等。昨年度は 5495 点のエントリーがあり受賞が 1892 点、ゴールドアワードが 26 点。日本からは現在までに 2033 点。現在、iF では若手人材育成に注力し学生アワードを実施、13、000 点のエントリーがあるが日本からは応募がなく今後に取り組みたい。iF では DB も構築しポータルコンテンツも増やしていきたいので協力頂きたい。

（質疑）

Q：大学へはどのようにリーチされているか？（宮田氏）

A：大学の先生にお願いしてきた。今後は学生の方に直接に説明させて頂く機会を考えている（高田氏）



2) デザイン政策紹介

「デザイン政策紹介」 経済産業省 商務情報政策室 松島さおり氏

経産省では第4次産業革命(AI、IoT等)において工場等での労働力がロボット等に代替されることや、グローバルネットワークでの情報リソースを握る企業だけが全てをもっていくようなことが、モビリティやヘルスケアにも及ぶと考えている。その中でAIやロボット等が担えない部分である、クリエイティブやデザインの力が今後も必要になっていく。当課で取り組むクリエイティブ産業の振興は、特定の製造分野に限るものではなく、従来ある産業の領域を感性価値で広げていくような活動全般としている。昨年度のヒット商品として各地で紹介しているが、自動車会社の下請企業が研磨技術でカクテルシェーカーを開発したように、ものづくり技術に感性価値を見出していくことが大切になると考えている。

感性価値を世界に発信するものとしてクールジャパン政策を推進し、地方発クールジャパンとしてThe Wonder500、more thanプロジェクト、meet theふるさと事業等を実施。

デザイン政策室では、経営におけるデザインの活用、デザイン人材の育成、日本のデザイナーの国際展開を3つの柱として行っている。第4次産業革命を背景に技術オリエンティッドでなく顧客のニーズに合わせて事業課題を解決する人材が求められていて、“ものづくり”だけでなく“コト”づくりのためにデザインの視点が重要になっている。昨年度の企業調査からもプロダクトからUI、UXへ領域が拡大しているとの声が上がってきている。例えば、携帯電話の開発でも最終的な形というよりは“そもそも何をつくるか”にデザインの視点を入れている。

デザインの導入に関する普及啓発では、企業経営者にデザインマインドを伝えていく。高度デザイン人材の育成ではUXの人材が不足しており、ユーザ・テクノロジー・ビジネス視点をもつ人材を教育していく。ビジネスとデザインの関連性が深くなっており、これまではアンケート調査等でユーザが求めるものを開発してきたが、デザイン思考ではユーザが未だ気づいていないものを発見していくアプローチをとっている。こうした考えを行政も取り入れるべきと考えており、当課でも1ヶ月に1回程度、様々な外部クリエイターを招聘して政策議論する場もっている。デザインの啓蒙では、グッドデザイン賞のサポートやキッズデザイン賞を実施している。

デザイン産業の拡大に向けて、経営者への啓蒙は具体的なアクションプランを制定し、デザイン人材の育成では分野横断型の取組みを文科省と検討しているので関連の大学があればご連絡を、そしてデザインマッチングでは地方の素晴らしい文化をデザインプロセスによって発掘し経済価値を見出すことや、スタートアップを発掘していく。

スタートアップの例ではイクシーの義手がある。そうしたスタートアップにデザイナーやデザインに知見のある方を派遣する支援も考えている。最後に参考情報として文科省の文化GDPがあり、経産省ではコンテンツやデザインは近いものとする。文化価値をストーリー化し商品やサービスを開発することで、地方にある文化をデザイン価値にかえていく取組みをしていきたい。今回お話しした内容や各自治体での取組みについてデザイン政策ハンドブック2016にあります。また改定の際にはご協力をお願いします。

(質疑)

Q: JAPANブランドの発展した形としてクールジャパンがあるのか、JAPANブランドはあるままクールジャパンと並行してあるのか? (影山氏)

A: JAPANブランドがまずあって、そこで商品の開発や改良を進めて頂く。その後で海外に展開する等をクールジャパンが担う区分けと考えています。クールジャパン関連では商品開発に予算補助できないが、海外展開での専門家派遣等をサポートする。(松島氏)

Q: JAPANブランドも人材派遣がある。補助メニューが増えるのは有り難いので今後も宜しくお願いします。(影山氏)

3) 講演

「広島とデザイン。日本のデザイン。」 株式会社GK総研広島 代表取締役社長 弥中敏和氏

GKデザイン総研広島は1988年に栄久庵憲司、前田又三郎によって創設された。GKデザイン総研広島の最初の大きなプロジェクトがアストラムラインです。広島は川から山手側を見たときに新緑の黄緑から山脈はブルーグレーに霞む、グリーンからブルーのグラデーションが心象風景にあり、その中を走る車両は動物とか蝶に例えて反対色のクロームイエローをアクセントカラーに選んでいます。

市内に目を向けると広島電鉄があり、グリーンダイナミズムというキーワードでデザインしています。超低床車両のグリーンムーバーなどがある。広島電鉄はバス会社もありフィーダーバスの「ボンバス」もデザインした。

デザインをする上で拘っているのが「正統進化」。70年前、防府から原爆投下直後の広島に降り立った栄久庵憲司はその惨状を「凄惨な無」と感じ、「何か手に持つものを」との思いから現在のGKグループに至った。

「75年間、草木も生えない」というハロルド・ジェイコブソン氏の言葉があるが、被爆3日後には広電が動き始め、70年後には世界に冠たる都市になった。

しかしながら、原爆による被害からは復興したが歴史のダメージはどうなのかと考えた。人災や天災の後に「救済」が起こる。次に「復旧」。そして継続的に発展が続く「復興」。その過程で外からの支援があるが、外力によってその街がこれまでと違う歴史を刻み始める。支援は有り難いものでそれが無いと復興できない。一方で自分達の街が、かつてどうであったかが語られなくなる。忘却でなく上書きされていく。

東日本大震災での風景はショックでデザイナーとして何ができるか考えた。しかし目の前で失われる命を救うことができない。デザイン界も動き、「善意の計画案」が様々と寄せられたが、それが70年後も善意のデザインであるのかということが気がなった。

インパクトと上書き価値によって歴史はずれた処にあるという図式を書いてきたが、それがなかったらどう発展しているかを「正統進化」と名付けました。歴史を一元管理している人はいないので、何をもって正統進化かと思



われる方もおられるかと思う。しかしながら、デザイナーの仕事とは、「あれもあるこれもあるではなく、色々あるけどこれでしょ」という表現をすることにあると思う。そういうデザインの説得力をつくる作業のなかで発見したのが「日本である理由(わけ)」を考えてみようということだ。

聖徳太子の「和を以て貴しと為し、忤ふること無きを宗とせよ」という言葉にこの国の宿命が現れている。また大陸などから様々な民族が入ってきたと考えることが自然で、排他的でない「受け入れ目線」でものを考えていった。その端的な例が「蕎麦」。痩せた土地に辛うじて実を結ぶ蕎麦をわざわざ天日で干して、擦って捏ねて伸ばして切って、なかなか大した労力をかけて食べようとする。できたものは粗末な食べ物であるが、それを凄く良いものとして高める。私は「痩せ我慢の美学」と名前を付けている。食べる側の気持ちを最高のものにしよう工夫する、日本人らしい考え方が顕著に現れたプロダクトかと思います。

「おもてなし」についても誤解がある。外から来る人に一方的にサービスすることが「おもてなし」ではない。「おもてなしとは、日本の宿命を形にして示すもの」であり、まさにデザイナーであるが、デザインは色や形だけではない。

日本の宿命について一言に要約すると「和」であり、温和で和やかな印象があるが、本来の和は犠牲によって成り立つものである。秩序や和やかさを生むためには何らかの犠牲が裏腹になっていることを、日本人は排他的でなく仲良くやっていく中で我慢しながら意識の中にもってきたものといえる。

その例が針供養で、針というものが犠牲によって成り立っていることを、人だけでなく物を通じて見る、日本人の心情が育まれている。容器をデザインする上では、先代が築いてきた食文化を引き受けるという覚悟を迫られると思って仕事をしている。卓上の醤油瓶ですが、醤油がどういう風に生まれ発展し、昔に2L瓶から母親が苦労して醤油差しに分け入れるという行為を美しくするために小分けにして指2本で持てるようにした。

先頃、ロシアでサンクトペテルブルグ市役所の方々の相談にのる機会があった。造船が斜陽となり産業空洞化に面している。一方でエルミタージュ美術館など芸術における求心力は絶大であるが、それに頼るだけではない、次代の産業を考えるべく迷っている。海外の様々な都市に行くが「案外、どこも抱える課題は一緒だな」と感じる。

ロシアに合った正統進化、日本人デザイナーの私に何ができるか問われているが、ただハロルド氏の言う75年というのが巨大なインパクトに対する理解の時間ということ自分で納得できれば、今が一番チャンスというか面白い瞬間(とき)ということで、何ができるか向き合っていきたいと思う。

「おもてなし」の発想をデザインにどう応用展開可能かスタディしてきた。宮島とモンサンミッシェルが観光姉妹提携しており仏人観光客が増加しているが、どう「おもてなし」するか。仏人が牡蠣筏のようなフロート施設で、夕日を眺めながら日本酒を味わう。広島日本酒をこの地の自然と向き合って堪能してもらうために、ストーリーを立ててデザインできないかというものです。

平和公園には、石碑に貴重なメッセージを刻み、空間と一緒に向き合ってもらくものをデザインした。

地元の産業を見ても、もうそろそろ復興から脱し始めているのを感じます。GKデザイン総研広島での随分前からの夢に瀬戸内に飛行艇を飛ばすというものがある。いきなり観光産業に鞍替えではなく、折角にもものづくりの知恵が集積するので、車のレシプロがプロペラ機に活かされるといった、事実ある「ものづくりの広島」というところをどのように継承していくか考えた。

この会は「産業技術」「ライフサイエンス」「デザイン」と、70年経った広島に於いて一番考えないといけないことが3つもインプットされている。今日明日の皆さんの議論が活発になることを祈願する。

(質疑)

Q: 公設試でデザインの研究・指導をしていると経済性や売れることが中心となってしまうが、70年後も善意となるデザインに取り組んでいるか振り返る思いでした。全国からこれだけの機関の方が集まっているが、このパワーによって何か取組めることがあるか、何かご教示頂けないでしょうか。(橋本氏)

A: 実は私の前の松島様のお話を聞いて、復興から脱しかけているように感じた。まだ事例は多くはないのかもしれませんが、何かを変えて下さいというものはありませんが、もっと各機関での取組みをスピードアップしていただけるようなことに、今日の話を受け止めて頂ければと思います。(弥中氏)

意見:

京都も観光都市としての京都、ものづくりの京都とはなんだろうということ色々な企業さんと考える中で、和とは何なのか研究した。結局、聖徳太子の「和を以て貴しと為し、忤ふること無きを宗とせよ」からきているものではないかと考え、また「受け入れ」という考え方も、やはりそうだよなと感じさせて頂いて有難うございました。(古郷氏)

4) 研究交流会

ものづくりデザイン研究会(603 小講義室)、ユニバーサルデザイン研究会(602 交流室)、地域デザイン研究会(502 大会議室)、デザイン活用ツール研究会※試験実施(503 会議室)の4研究交流会に分かれて、それぞれのテーマに基づき意見交換を行った。

5) ポスターセッション(502 会議室)

18枚のポスターを展示し、各自治体の事業紹介やデザイン開発事例の紹介があった。1分間スピーチの後、熱心な意見交換がなされた。



6) 全体会議(502 会議室)

(a) 各研究会の報告

◆ものづくりデザイン研究会(山口県 松田氏)

- ・3Dプリンタの導入および活用に関する報告が多かった。また、これから導入予定があるため情報収集が目的として参加された機関もあった。
- ・「3Dものづくり」と「デザイン」を組織的に分離したり、「次世代ものづくりラボ」の様な新しい部署の設置など3Dものづくり体制の強化・特化する動きも報告された。

・TRAFAM（3Dプリンター開発の国プロ）で開発された金属 3D プリンタの導入や生活支援ロボットのデザイン開発支援のための導入など、単に導入するだけでなく国産 3D プリンタ開発への参画や明確な製品開発支援を目的とした導入が見られた。

・昨年度より 3D プリンタの公設試の保有リストの作成および一般公開の要望が挙げられたが、製造プロセス部会 3D ものづくり特別分科会において、すでにリストが作成されているため、幹事（松田）が参加予定の 3D ものづくり特別分科会へリスト公開について検討を依頼する事とした。

・3D プリンタ関連以外には生活支援ロボットのデザイン開発支援事業やデザイン力を活用した木製品の製品開発支援など製品開発支援の報告があった。・3D プリンタの導入が進み、樹脂→金属造形の装置が各県入ってきた。岩手県に金属材料のものが導入された。金属 3D プリンタは樹脂とは違って、データからすぐモデルができるわけではなくノウハウが必要で戸惑っている。山口県で昨年導入のため、情報交換を進めていきたい。

・3 山口県 3D ものづくり研究会 県内企業が会員。3D プリンタをどういった用途に使うのかのニーズ調査、ニーズを実際どう解決するかの活動。・岩手県 新しいものづくりの装置、技術を集約した組織ができる。次世代ものづくりラボ。ができる。・製品開発支援の事例紹介もあった。神奈川県、生活支援ロボットへのデザイン支援事業。滋賀県、製品開発支援。共同研究も実施している。



◆ユニバーサルデザイン研究会（静岡県 多々良氏）

・8名の参加。評価するための倫理委員会についての話題があった。デザイン関連の職員数の状況紹介。

○事例紹介：

- ・鳥取県 医療系の支援でデザインの評価をどうしていくか？機器整備の課題がある。
- ・広島市 グッドデザイン賞、医療福祉研究会の紹介
- ・広島県 作業改善、中山間地域農業の課題、視線技術、低価格 3D プリンタ活用の福祉用具開発の紹介
- ・長崎県 高齢者用食器の開発。機能に特化し過ぎず、一般食器に近いしつらえを目指したユニバーサルデザインへの取り組み。シニア市場への導入。高齢食、ユニバーサルフードも含め取り組んでいる。
- ・東京都 これから実施していくこと、機器の説明。UI、UX 関連の業務も実施している。潜在化しているニーズの抽出、手法の開発について
- ・これらのことについて意見交換した。8名であるが時間が少なく、具体的な話ができなかった。このあとの交流会でできればと思っている。



◆地域デザイン振興研究会（千葉県 岡村氏）

○概要：

- ・19名が参加。伝統産業を支援している自治体が多かったのが印象に残っている。
- ・東京都が一億円という事業の中で、職人さんとデザイナーさんをマッチングさせて商品開発をした。
- ・伝統産業と 3D データの活用も多くあり、新しい取り組みかな。と思っている。

○商品開発を創出する各種事業の紹介

・大分県、グッドデザイン商品開発研究会。平成 10 年から実施している。広島市、グッドデザイン賞事業など、各種事業、研究会を取り組まれている自治体が多かった。

○デザイン担当が少なくなっていて、いよいよ厳しくなってきたという事情の話もあった。

○アンケートを会員に事前に送付していて、今後の地域デザイン振興研究会やデザイン研究会への取り組みへアンケートいただいた。以下、意見。

- ・全体の人数が多くて話し合う時間がすくない。3分程度話して終わった。
- ・話題が絞られていない、いろんな事例、話が聞けるだけでも良いのではないかと、という意見もある。
- ・話し合う時間が少ないので、研究会は春の分科会のメインであるから 2 時間くらいほしい。
- ・事前に資料を揃えておく。ファイリングして整理できるようにしておく、議事録を活用したりする。
- ・幹事だけでは難しいので開催県と一緒に考えていけないうい。

○その他情報提供：

- ・デザイン振興会、グッドデザイン賞への説明に各県に伺う。希望のある方は直接問い合わせしてほしい。
- ・九州大学の長谷川様から、地域公設試の施策を支援するシステムの紹介。デザイン事業の成果をどういったかたちで見せたら良いか、みなさん悩んでいるかと思う。こういう情報を一元化し、システムを活用していけば、情報の集積ができて良いのではないかと。

・九州大学の長谷川氏より補足説明

文部科学省から予算をいただいて、地域の政策立案者の方とか公設試験研究機関の方に使ってもらえるようなシステムを開発している。

まだデータが足りない状態。こういう風にしたから成功したといったとか、ここがつまずいていうとか、出せる範囲でお話を伺って、「それを見るとみなさんの役に立てるようなシステムにしていきたい。アンケートやインタビューにご協力いただきたい。



◆デザイン活用支援ツール研究会 北海道 万城目様

○各機関からの情報提供・11 機関からデザイン活用支援ツールに関連する情報提供があった。

- ・このうちオリジナルツールを開発しているのは 6 機関(北海道、秋田県、青森県、山梨県、大阪府、産総研)。
- ・ツールの必要性を認識している機関、これからツール開発を検討したい、と考えている機関もあった（静岡

県、京都市、佐賀県)。

- ・複数の機関で類似のデザイン活用支援ツールのニーズがあることが分かった。
- ・山梨県では、独自のワークシートツールを開発したものの、普及が進まず現在は活用していない。

○主なツール

- ・デザイン導入、あるいは感性価値の効果や取り組み方を理解してもらうためのツール（北海道、産総研）
- ・開発製品に関するヒアリングのためのツール（北海道、秋田県）
- ・企画やコンセプト開発を支援するためのツール（北海道、青森県、大阪府）
- ・3次元人体モデルを活用したデザイン・設計支援ツール（産総研）
- ・ユーザビリティテストをサポートするツール（静岡県）
- ・地域のデザインリソースをまとめたアーカイブツール（山梨県）
- ・伝統産業関連事業者をターゲットとしたデザイン活用支援ツール（京都市）

○意見交換

① 利用しているツールの情報共有について

- ・全国公設試験場におけるデザイン活用支援ツールのリストは作成できそう。
- ・これを「こらぼん」ウェブサイト上で情報共有してはどうか。
- ・デザイン活用支援ツールの利用者によるレビュー情報があると参考になりそう。

② ツールの共有について

- ・各機関が開発したオリジナルのツールは積極的に公開し、共有するのが理想。
- ・類似のツールを各機関で開発することは無駄だが、一方ではお互いがライバルという見方もある。
- ・ある機関が開発したツールを他の機関が利用したい場合どうしたら良いか？
- ・各機関それぞれの知財としての取り扱い方がある。有料化という方向もあり、ケースバイケース。

③ ツールの対象範囲

- ・デザイン活用支援ツールと言っても、ツールと見なせる対象範囲は広い。
- ・この研究会が対象とするデザイン導入活用支援ツールの範囲を定義すべきでは。
- ・例えばデザイン開発プロセスのどの段階で使うツールなのか？デザイン活用支援ツールの領域の広がりやその中で位置づけ、分類を考えるための軸が必要。
- ・今後研究会の中、こういったテーマでワークショップを行っても良いと思う。

④ その他

- ・日本デザイン振興会：審査の体験ワークショップをするとグッドデザイン賞のエントリーシートが整理されて出てくるようになった。
- ・今後継続するかどうかについては、分科会長、事務局のみなさんを含めて前向きに検討したい。



(b) 全体討議

◆研究交流会の進め方について提案（静岡県 多々良氏）

- ・研究交流会の人員数のばらつきがある。「地域」というのは、どこの県も関係あるので一番参加しやすい研究交流会になっていないのではないか。提案としては、その年のテーマを決めて、商品開発でもマーケティングでも具体的なテーマに対して、それぞれでやってもらっても良いし、ある程度の塊を持ってやっていく。幹事は、とりあえず、何年かは現在の幹事が引き続いてやるということも考えられる。今回新しい研究会を行うということもあり提案させていただいた。

◆質疑

- ・質問がないようなので、分科会長よりコメント。

○「研究交流会のあり方、全体の研究交流会の進め方について」

各幹事に、研究交流会の在り方について議論をお願いしていたが時間が充分にとれないところもあったようである。役員とメールのやり取りで検討してきたが、秋の山梨県の分科会で、研究交流会の在り方について時間をかけて検討してはどうかと。今回はとりあえず意見を出して頂く、問題提起して頂くという会にしたいと思っている。このような形で宜しいか？この場でどこをどう改編するという議論はできないと思うので、まず皆さんの意見をまとめてということに、今回はさせていただきたい。

→拍手にて、承認。

○「ツール研究会について」

少し覗いたが大変に活発で、続いていくという印象は受けた。細則では、役員協議をして決めていくことになっている。秋の分科会までに役員で書面協議をして検討していくようにさせていただきたい。宜しいか？

→拍手にて、承認。

(c) 提案・要望事項

◆アンケート調査のお願いとデザイン職員採用状況の調査の要望について（埼玉県 影山氏）

・要望というよりもお願い。地域企業への支援をまとめていきたい。いくつかの大学の先生と一緒に調査をする。この企業に突っ込んだことを聞かないといけない内容となっているので、普段お付き合いしている企業さんへお願いをするような形になるのでお願いしたい。

・新人のデザイン職員が取れない。共通の悩みだと思ふ。過去5年くらいの範囲で、私の方で、みなさんをお願いして調べていきたい。その結果をデザイン分科会で共有していきたい。

◆提案決議について（デザイン分科会長 橋本氏）

デザイン分科会の運営細則に研究交流会の「新設」の文言はあるが「改廃」の規定がない。「新設及び改廃」の文言を入れたい。いかがか？

→拍手にて、承認。

◆こらぼん Web (デザイン分科会長 橋本氏)

こらぼん Web の投稿促進を図りたい。秋までにアクションして投稿もらう取組みをする。

・補足説明 (大阪府 川本氏)

前会長時に開設したが、引き続き運営に協力したい。投稿の方法など遠慮なく問合せしてほしい。

◆本会議資料の説明 (デザイン分科会長 橋本氏)

- ・デザイン分科会としての取組み 継続の6つの課題については引き続き検討していく。
- ・開催場所が平成30年度以降について未定。特に秋の分科会での広域関東ブロック輪番開催について、一時期に負担減のため東京の産総研会場等での実施もしていたが、また現地開催に戻っており、今後の方法を検討すべきとの声が会員から出ている。H28 秋の分科会で検討したい。



(d) 次期開催県、次年度開催県の紹介と挨拶

◆平成28年秋開催 (山梨県 金丸氏)

・10月の下旬11月の月上旬に計画中。多くの方に参加して頂いて、活発な議論ができればと思う。よろしくお願ひしたい。

◆平成29年春開催 (長崎県 桐山氏)

・広島から長崎へのバトンタッチ。長崎は西端だが、来年も沢山の方に長崎まで来て頂き、活発な意見交換が出来ればと思う。宜しくお願ひしたい。



4. 閉会

■意見交換会 (交流会)

会場：広島酒呑童子

参加人数：59名

概要：各地域のデザイン関連施策・事業に関して熱心な意見交換がなされた。

<2日目：視察見学会>

■宮島細工、宮島の建築意匠についての視察

宮島商工会館にて、伝統工芸の宮島細工 (杓子、挽物、削り物、彫り物) について、宮島産業振興会長や伝統工芸作家から説明頂いた。3班に分かれ、島内事業者の工房見学 (榑宮島工芸製作所、榑村上工芸、小田木工所) を見学し、意見交換した。その後、厳島神社や大鳥居の建築意匠、及び地域資源ブランド化の取組みを視察した。



■自動車メーカーにおけるデザインの取り組み

マツダ株式会社デザイン本部にて、“魂動 Design” についてデザイナーからプレゼンテーションをして頂いた後に、「Touch Design」としてクレイモデルに触れ、削り、同社のデザインフィロソフィーやブランディングについて意見交換した。その後、マツダミュージアムにて、デザインプロセスやスカイアクティブ技術の紹介、生産工程を視察し、デザインとエンジニアリングの切磋による地域に根差した製品開発について研修した。



< 以上 >